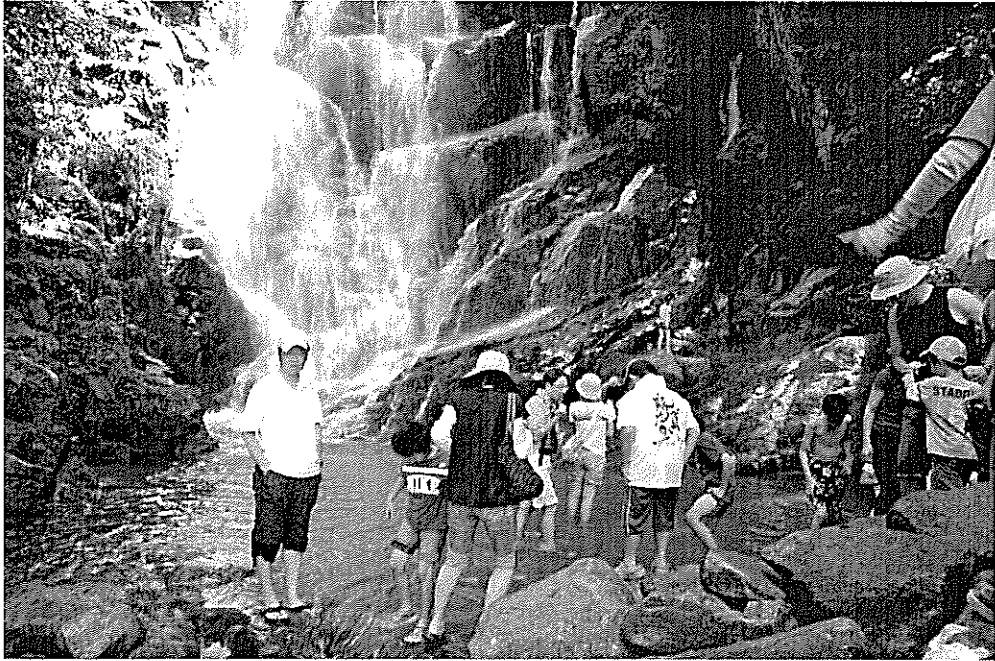


長系校区まちづくり計画  
～いとしま共創プラン～



平成 30 年 11 月

長系校区運営委員会

## はじめに

長糸校区は自然環境に恵まれ古くから農業を中心として、元気で活発な村づくりが進められ、暮らしやすい地域として発展してきました。しかしこの長糸校区も時代の変化とともに農業中心の生活から、他産業への従事者が増加し地域全体の生活構造が変わってきました。

その結果、若者の流出とともに少子高齢化が進み、平成元年 2,496 人であった人口は、平成 30 年には 2,031 人と 30 年間で 465 人。約 2 割の人口が減少し高齢化率も 34.6%と糸島市の 28.2%を大きく上回っています。

長糸小学校では平成 30 年度全校児童数が 102 人と児童数が 100 人を超えましたが、ここ 10 年間は児童数が 100 人を切る状況が続いていました。このままだと今後も少子・高齢化そして人口減少が進行し、子どもたちの遊び声の間こえない活気のないさびしい地域になることが懸念されます。

糸島市では、基本計画の重点プロジェクトとして「校区まちづくりの推進」が掲げられており、地域が一丸となった活力ある校区づくりの推進が求められています。長糸校区でも平成 23 年度からまちづくり推進委員会を中心に地域づくりを進めて来ましたが、まだ道半ばであります。今後も昭和 3 年の第 1 回長糸郷土振興大会で決起された先人の意志を受け継ぎ長糸校区住民が安全で安心して暮らせる地域づくりを進めていきます。



— 目 次 —

1 校区の概要	.....	P3
2 校区の課題	.....	P4
3 校区のめざす将来像	.....	P4
■キャッチフレーズ		
4 課題解決の基本方針	.....	P5
5 具体的な取り組み	.....	P5~8
6 資料編		
(1) 長系校区の人口推移		



# 長系校区まちづくり計画

## 1 校区の概況

### 校区の位置と現況

長系校区は福岡市の西に位置する糸島市の南部にある。地区の中心部は糸島市役所から6km、福岡市中心街から30kmの距離にある。

地形は南に脊振山系が連なり、羽金山・獅子舞岳を源とする四つの谷水が、長野川の清流となって縦貫する。山に囲まれ、水に恵まれた地域であり、古来、良質米産地として名を成してきた。

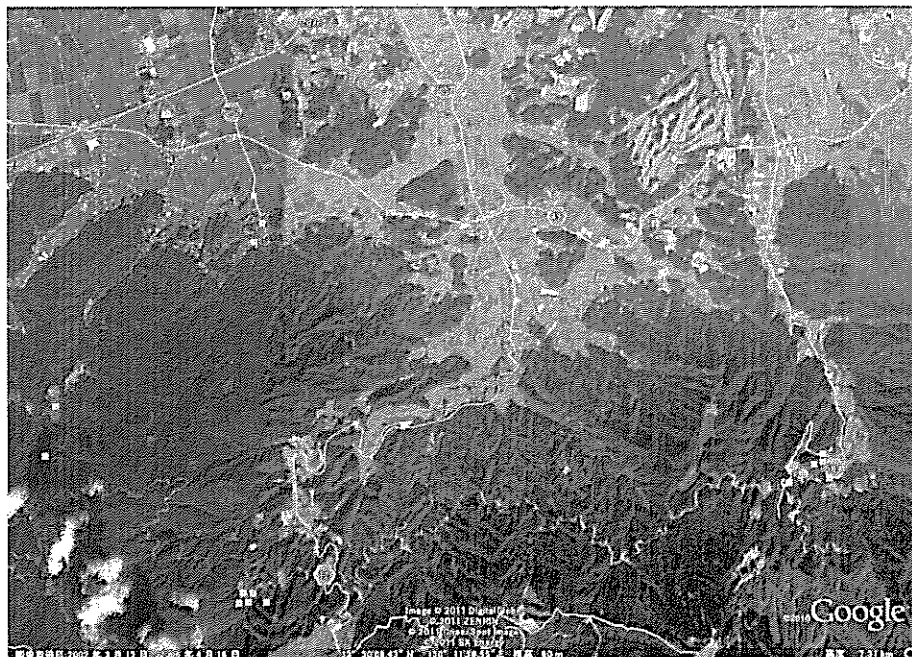
明治22年、6村が統合されて長飯本村、改称して長系村となり、昭和30年、前原町に合併、更に平成22年1月の合併で10万都市、糸島市となったが、長系校区は15の小学校区では最小規模の校区である。

校区内の戸数は765戸、人口2,220人で昭和30年代から大きく変化はないが高齢化が進んでいる。近年の鉄道、西九州道の整備により福岡市中心街まで地下鉄経路で40～50分、車では西九州道で30分の交通の良さで通勤の便は良いが、車のない高齢者や学生の交通の便は悪い。

面積は東西約4km、南北約6.5kmの23.6km<sup>2</sup>（山林14.3km<sup>2</sup>、農地5.2km<sup>2</sup>、宅地0.4km<sup>2</sup>）で、中山間地帯農村である。農産物は米と並び苺、茄子、路地菊等も盛んであり、養鶏、酪農、養豚の畜産もある。

文化財としては、7世紀の土木事業・神籠石（国指定）。名勝・白糸の滝。天然記念物・万龍楓（県指定）がある。また5神社春秋の五穀豊穰祈願や、6寺の祖霊法要も真摯に継承されて、敬神・敬老の美風を温存する、勤労・穏健な校区である。

平成23年3月作成



## 2 校区の課題

長系校区の人口ピラミッドを見ると、60～64歳の人口をピークに逆ピラミッドの形状を示しており少子化、高齢化、人口減少が進行していることが分かります。

この事に歯止めをかけるには、先ず長系校区を誰もが住みやすく住みたくなる地域にすることが一番だと考えアンケートを実施しました。その結果、長系は住みやすいと感じておられる方が多いという結果となりましたが、様々な課題も指摘されました。その中から比較的多くの方が不満や不安を持っておられる次の項目を主要課題として取り上げます。

- (1) 少子高齢化が急速に進行している。
- (2) 買い物などの利便性、交通の便が悪い。
- (3) 医療機関が近くになく不安である。
- (4) 働く場が近くに無い。
- (5) 恵まれた水、空気、景観等がマナー低下により身近な所で汚されている。
- (6) 地域役員等の役や行事が多く負担金も大きい。

## 3 校区のめざす将来像

### ○キャッチフレーズ

美しい自然の中で お互いを思いやりながら 元気に生きていく長系  
—— 地域を住みやすくする主役は 私たち一人一人です ——

### ☆地産地消の精神で！☆

長系の文化や資源、事業などを再度見直し、有効活用していく。

地元の良さを、まず地元の人が認知し、他地域にアピールしていく。

#### 4 課題解決の基本方針

- (1) これまで取り組んで来た振興大会や夏まつり等の取り組みを継続・拡充し、人情豊かな交流で、住みやすい地域を作っていく
- (2) お年寄りや子どもが元気な地域を、よりいっそう住みやすい地域にしていくため、見守り活動等を継続・拡充し、かつ若者の活性化に向けた取り組みを進める
- (3) 地域の連携を保ち、地域役員等の役や行事の効率化の見直しや負担金の軽減化を図る
- (4) 豊かな地域資源を、後世に引き継ぐための取り組みを進める
- (5) 買い物などの利便性、交通の便が悪い、医療機関が近くにないなどの不安課題の研究・協議の場を立ち上げて、進捗状況を示しながら課題解決に取り組む
- (6) 働く場が近くに無くて困ることについて、研究・協議の場を立ち上げて進捗状況を示しながら課題解決に取り組む。

#### 5 具体的な取り組み

平成 23 年度からまちづくり部会（「市民交流部会」「歴史文化部会」「安全福祉部会」）で、それぞれキャッチフレーズの「美しい自然の中でお互いを思いやりながら 元気に生きていく長系」の実現に向け取り組みがなされてきました。今後、現在までの取組を検証して残された課題解決に向け具体的な取り組みを進めていきます。

- (1) これまで取り組んで来た振興大会や夏まつり等の取り組みを継続・拡充し、人情豊かな交流で、住みやすい地域を作っていく

##### ○現在までの取組

- ①郷土振興大会で新成人の祝賀をプログラムに入れ郷土振興大会の意義を若者に広めるとともに小学生と新成人の掛け合いを入れて小学生に将来の夢や希望に繋がる取組を進めている。
- ②夏祭りを長系校区の一大イベントとしてみんなで作り上げるため実行委員会の充実強化を進めてきた。また、夏祭り専用舞台並びに収納庫の設置をして実行委員会の負担軽減も図った。

③郷土振興大会と文化祭は、従事者の負担軽減と参加者の増加を図るため2日間開催を1日開催に改め、会場を小学校に一本化した。

④婚活の場を設ける計画も出ており検討協議を進めたが実現には至らなかった。

#### ○今後の取組

①夏祭りについては、今後も継続・拡充していくため実行委員会体制の見直し強化を図る。

②郷土振興大会並びに文化祭は、夏祭りと比べ地域のものとなっていない状況を改善し取組みを充実していく。

(2) お年寄りやこどもが元気な地域を、よりいっそう住みやすい地域にしていくため、見守り活動等を継続・拡充し、かつ若者の活性化に向けた取り組みを進める

#### ○現在までの取組

①校区社協の取組みを充実強化してきた。

- ・高齢者（85歳以上）の花鉢を持っての訪問
- ・一人暮らし高齢者の見守り活動として愛の弁当配布
- ・いこいの家に来てみません会の月1回実施
- ・このほかにもきめ細かな取組みを実施

②子ども達の登下校の見守りをするため月2回、登校時にあいさつ運動を兼ねて見守りを実施。また、週1回下校時に青色パトロール車の見守り活動を実施。

③若年層（特に中高生）の活躍の場を作ることは、合同運動会、夏祭り及び文化祭に中学生の参画が実現した。

④12月の人権週間の行事において校区出身の中学生が人権作文の発表を行っている。

⑤校区内企業に呼びかけ職員採用にあたっては、地域住民の採用に配慮頂くよう要望した。

⑥農業後継者を募る。については対策が出来ていない。

#### ○今後の取組

①災害時の高齢者や障害者の支援については、自主防災訓練を校区及び行政区毎に実施しており、具体的な対策を話し合っていく。

②お年寄りが元気な地域にするため、働く場の確保と環境整備の面から「ながいと鎮竹林」を立ち上げ荒廃竹林の整備を実施して、タケノコ、メンマなどを販売するシステムを構築する。

③青色パトロール車の見守り活動を充実させる。

(3) 地域の連携を保ち、地域役員等の役や行事の効率化の見直しや負担金の軽減化を図る

○現在までの取組

- ①地域役員の減少や負担金の軽減化については、検討したが行政区によって事情が異なることから校区として一本化できなかった。
- ②60歳代の活用とボランティアやNPOなどの組織化を図ることについては、自主運行バスの運転手にボランティアを募って19人が参加された。

○今後の取組

- ①現在組織の中で行政区から二人体制で役を引き受けてもらっているものもあり、内容を検討し役員を減らすことに繋げる。

(4) 豊かな地域資源を、後世に引き継ぐための取り組みを進める

○現在までの取組

- ①「ふるさと ながいと」を作成し、校区並びに行政区の史跡、名所、特産品、観光地などを紹介した。
- ②現在「ながいと鎮竹林」を立ち上げ、荒廃竹林の整備に着手した。

○今後の取組

- ①今後、行政区毎に収録した語り部ビデオを編集し、後世に引き継ぐための取り組みを進める

(5) 買い物などの利便性、交通の便が悪い、医療機関が近くにないなどの不安課題の研究・協議の場を立ち上げて、進捗状況を示しながら課題解決に取り組む

○現在までの取組

- ①買物難民のため「いと丸くん」の運行を始めた。
- ②校区内にコンビニが欲しいとの区民要望に対応するため、市に要望して「長系生活拠点地区計画」が実現し、コンビニエンスストア（FM）が開店した。
- ③交通弱者対策として自主運行バス「あじさい号」（買い物、病院など）の運行を始めた。
- ④医療機関が無いことによる不安解消については、現実には取り組めなかった。



○今後の取組

- ①自主運行バス「あじさい号」(買い物、病院など)の充実強化に努める。

- (6) 働く場が近くに無くて困ることについて、研究・協議の場を立ち上げて進捗状況を示しながら課題解決に取り組む。

○現在までの取組

- ①人口増加策の一環として、土地利用計画(農振法、都市計画法)の見直しを前原南部地域会議を開催して市への提言を実施した。
- ②人口減少対策の一環として、校区内にある空き家を活用する。また、お店の新規オープンにも繋がった。(地域コーディネーター活用)

○今後の取組

- ①長系校区の特産品開発を進める。

